



## ② 合同シンポジウム

### 第2回 合同シンポジウム

#### 概要と目的

3大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する

#### 日 時

令和6年3月2日（土）9:00～13:00

#### 場 所

三重大学 地域イノベーションホール（Zoomによるハイブリッド開催）

#### 主 催

三重大学医学部

#### 後 援

三重県、公益社団法人三重県医師会、一般社団法人三重県病院協会

#### 参 加 者

177人（現地86人、オンライン91人）

#### 次 第

9:00	開会挨拶	三重大学医学部長 堀 浩樹 / 三重大学学長 伊藤 正明
9:05	祝 辞	三重県知事 一見 勝之様
9:10	特別講演①	『地元が担うビルド・バック・ベター(創造的復興)！ －黒潮を介して育つ若い世代の共感と連帯－』 座長：三重大学医学部長 教授 堀 浩樹 講師：日本WHO協会 理事長 中村 安秀氏
10:15	休 憩	
10:20	特別講演②	『地域基盤型医療者教育～地域で学べるこんなことあんなこと～』 座長：山本 憲彦 講師：富山大学医学教育学講座 教授 高村 昭輝氏
11:25	休 憩	
11:30	取り組み事例報告	『防災訓練』 岸上 僚一（3年） 『エアーストレッチャー搬送』 森井 啓太（3年） 『iPadによるAR浸水没入体験』 村瀬 翔来（3年）
11:45	取り組み事例報告	『全方位カメラを用いたER教育システムの導入』 三重大学医学部附属病院 救命救急・総合集中治療センター 教授 鈴木 圭
12:00	取り組み事例報告	『中部国際空港検疫所を見学して』 中西 なつみ（3年） 水谷 友香（3年）
12:15	休 憩	
12:20	グループディスカッション	『津波被災時は籠城体制が敷かれますが、食料・医薬品の枯渇、水道・電気などのインフラ回復が見込めない場合、病院避難の必要性があります。限られた医療資源と搬送手段のもと、患者の重症度や安定度を配慮して、避難の優先順位をつける机上訓練を行います。』
12:55	次回開催地挨拶	和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 分院長 廣西 昌也
13:00	閉会挨拶	三重大学医学部長 堀 浩樹

# III. 事業実施状況報告

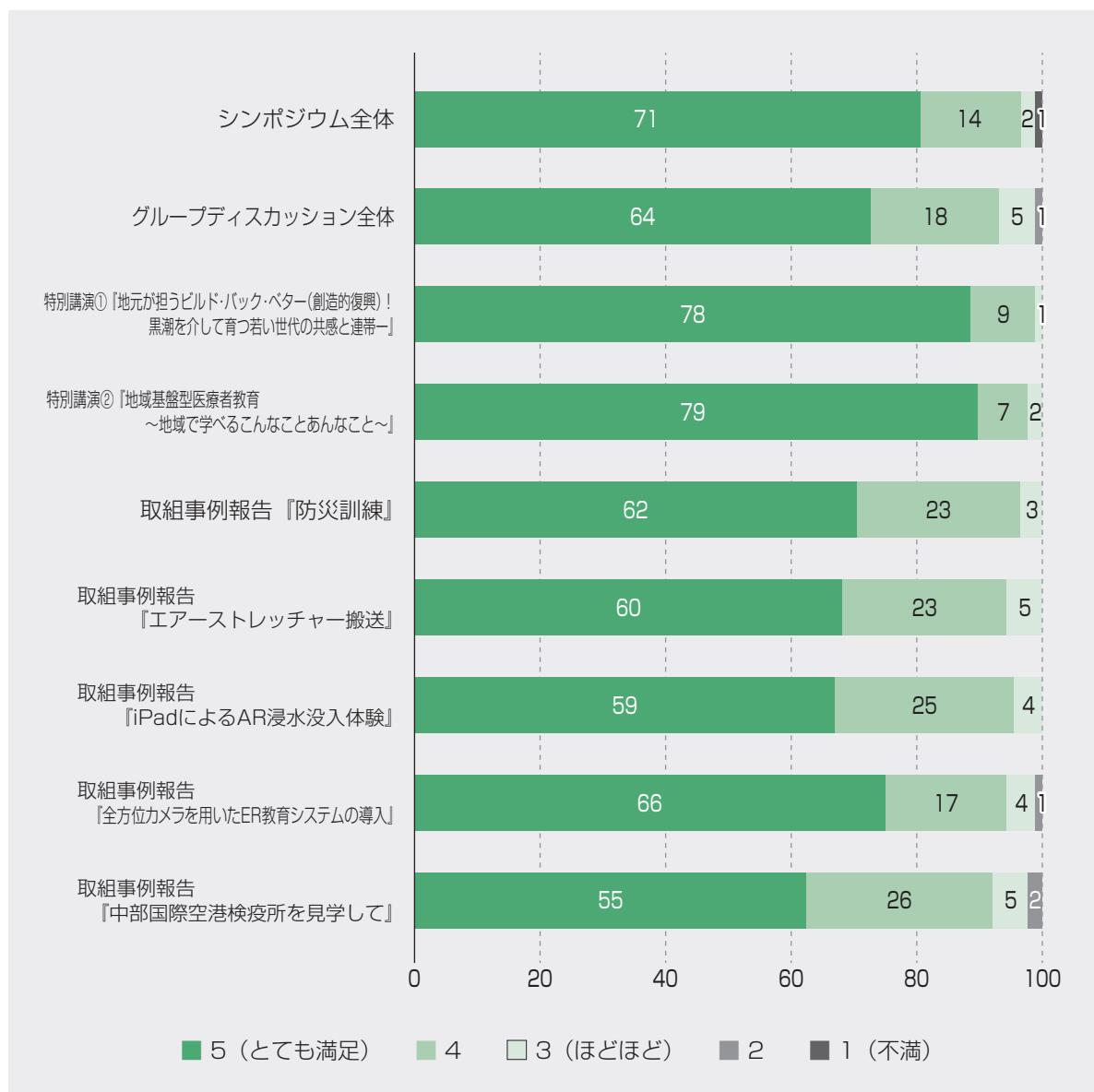
## ■ 参加者内訳

	計	三重	高知	和歌山	その他(不明含む)	その他内訳
医学生	87(58)	16(1)	68(57)	3(0)		
大学関係者	56(14)	29(1)	14(8)	13(5)		
高校生	12(4)	8(0)	1(1)	3(3)		
地域医療機関	9(3)	6(1)		3(2)		
県庁職員	3(2)	1(0)	1(1)	1(1)		
その他(不明含む)	10(10)				10(10)	
計	177(91)	60(3)	84(67)	23(11)	10(10)	

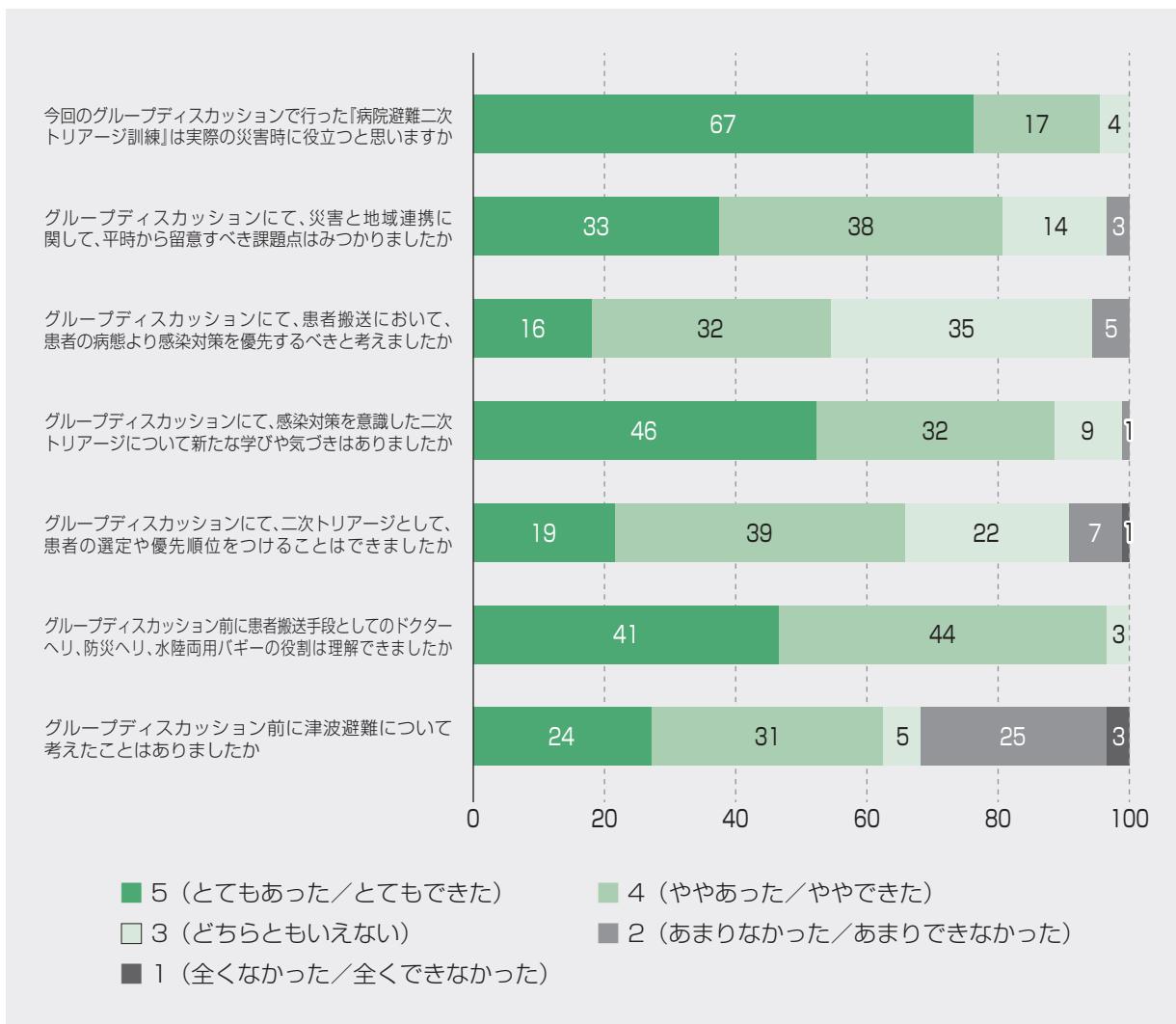
## ■ 参加者アンケート

回答者 88 人 (医学生 50、大学教職員 26、高校生 10、地域医療機関 2)

### 【各プログラム満足度】



【グループディスカッション満足度 『津波被災時は籠城体制が敷かれますが、食料・医薬品の枯渇、水道・電気などのインフラ回復が見込めない場合、病院避難の必要性があります。限られた医療資源と搬送手段のもと、患者の重症度や安定度を配慮して、避難の優先順位をつける机上訓練を行います。』】



## ■自由意見

### 【グループディスカッション全体】

#### 医学生

- 助かる見込みなしと判断しなければならない時がくることを医師の方から学びました。
  - もう少し直前の時間のゆとりをいただきたかった。
  - 優先度がトリアージの症状の程度と直結しないというところに救急医療の深さを感じました。
  - 実際に災害が起きて情報が錯綜する中で今回のような順位付けを実施するには最終決定権をもつ人の責任がとても重要だと気づいた。
  - 実際に体験、考えることができて良かったです。
- 他 41 件

#### 大学教職員

- 学生の気づきを促すよい教育手法と思いました。
- 情報量が多く、把握するまでの時間がもう少しあると良いと思いました。
- 医療資源、時間、秒単位で変わる患者の状態など、総合的に瞬時に判断する必要がある。

### III. 事業実施状況報告

● グループディスカッションの中継はあまりなかった試みではないかと思いました。ライブ感があって良かったと思います。天井からの机上の動画、参加者を映した動画の2画面で同時配信できるとわかりやすかったかもしれませんと思いました。

● 話を聞くだけではなく、実際に自分の意見を発言したりする事で、主体的に学ぶことができているようだった。また、実際の状況に近い形で訓練ができているのがいいと思った。

他18件

#### 高校生

● トリアージにはただその人の病気、重症度を見るだけでなく、感染症や薬の状態、薬によって回復する可能性など様々なことを多角的に見て判断しないといけないのがすごく大変だと思いました。

● 三重大医学部に行きたいという思いが高まった。

● 災害時は時間の限られた中で搬送先を決める必要があるということを感じた。

● この訓練は日々行うべきなのではないのかと思った。この患者さんはこういう症状をもっているから先に運ばなければという医学の知識を使って判断するから勉強になり、短い時間の中での優先順位を決めるのだから、日々訓練をすることで実際災害が起きた時、少しでも冷静に判断を行えると思うから。

● 聞いた事のない病気や症状も多かったけど、楽しむことが出来ました。もっと時間をかけて軽症の人まで考えたり、他の班の意見を見たりしたかったです。

他5件

#### 【シンポジウム全体】

#### 医学生

● 演者の位置とテーブルの構造上、演者の先生にやや背中を向ける形になつたのが申し訳なかった。学生の発表はよくまとまっていてわかりやすかったと思う。

● 中村先生から周りの人を愛する受け入れる姿勢の大切さをも学びました。私の進む道を示してくださっているとこれからも背中を追いかけていきます。語学もっと勉強します。

● タイムスケジュール通りに進んで欲しかったです。

● 今回のシンポジウムで様々な立場の方々からお話を伺い、幅広い見識を身につけることができました。今後、今回のシンポジウムを思い出しながら、医学に励んで参ります。ありがとうございました。

● 国際的な医療共同や、被災地での実体験などここでしか聞けないような貴重なお話が聞けてとてもありがとうございました。お忙しい中ありがとうございました。

他5件

#### 大学教職員

● 猥親会の時間が短いと感じた

● 時間が足りなかったです。有難うございます。

● またみんなで勉強したいと思います。ありがとうございました。

● とても良かったです、有難うございました。

● 時間が足りなかった。指導者に医学部長なども加わり、全学体制で行っていたことは素晴らしいと思いました。

#### 高校生

● 地域医療に貢献できるよう一年間頑張ります。

● 今回のシンポジウムで、この太平洋沿岸で災害が起きたとき、あるいは起こる前からどう行動するのがよいかを考えることができた。4月からは和

- 歌山県立医科大学で学び始めるので、来年のシンポジウムには医学部生として関わりたい。
- 貴重なお話をたくさん聞けて、大変ためになる経験となりました。特にグループディスカッションが面白かったです。

## 第2回 合同シンポジウム 当日の様子

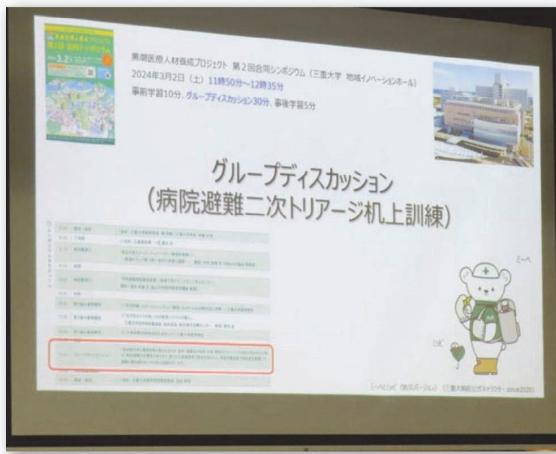


### III. 事業実施状況報告





### III. 事業実施状況報告



第2回 合同シンポジウム掲載記事（三重テレビ放送ニュース令和6年3月4日配信記事）



## 第2回 合同シンポジウム ポスター

